

理想とする生活満足度の特徴－現在の生活満足度との比較－

研究の視点：理想とする生活満足度と現在の生活満足度にどのような違いがあるか？

西原照雅（主任研究官）、安藤令（政策調査員）

問題意識

- 生活満足度を評価する際、回答者は自分自身に相応しい基準を構築し、この基準と現在の自分の生活環境を比較することが指摘されている。基準は個人や集団によって異なり、現在の生活満足度の点数の解釈に影響すると考えられるが、基準について調査した例は少ない。

分析方法と結果の概要

- 生活満足度を評価する際の基準を生活満足度（理想）と考え、生活満足度（現在）と生活満足度（理想）の両方を尋ねるアンケート調査を行った。
 - ※生活満足度（現在）を尋ねる設問：あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。
 - ※生活満足度（理想）を尋ねる設問：全体として生活に「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、あなたにとって最も理想的な状態はどの状態ですか。
- 生活満足度（理想）の平均値は7.11であり、最高点である10点と回答した人の割合は約15%に留まった。
- 様々な属性を用いて回答者を区分すると、生活満足度（理想）は個人や集団による差が見られた。また、いずれの区分においても生活満足度（理想）の方が生活満足度（現在）より高かった。

考察

- 生活満足度（理想）は個人や集団による差があり、10点を理想としている人はそれほど多くない。
- 生活満足度（現在）による生活評価は、アンケート調査で尋ねた点数そのものであるという点で明快であるが、回答者がどのような基準を基に回答した点数であるかが不明であり、点数の解釈や集団間の比較に注意を要すると考えられる。
- 生活満足度（理想）と生活満足度（現在）の差による生活評価は、回答者が構築した基準との差に基づく評価であることから、生活環境が正確に評価されている可能性がある。また、異なる個人や集団間の生活満足度（現在）を比較する際に、各個人や集団が考えている基準を加味した比較が可能になると考える。しかし、理想と現在の差による生活評価では、生活満足度（現在）の点数が考慮されないことに留意が必要である。

理想とする生活満足度の特徴 – 現在の生活満足度との比較 –

主な結果

- 生活満足度（現在）は5点及び8点にピークがあるふた山の分布となっているのに対し、生活満足度（理想）は8点にピークがあるひと山の分布となっている。生活満足度（理想）について最高点である10点と回答した人の割合は14.5%に留まった（**図1**）。
- 生活満足度（現在）と生活満足度（理想）が等しい人の割合が最も多く50.1%に達した。ここに、生活満足度（現在）が生活満足度（理想）を上回っている人を加えると57.9%となった（**図2**）。
- 生活満足度（現在）及び生活満足度（理想）ともに、世帯年収が多いほど、平均値が高い傾向が見られる。いずれの区分においても、生活満足度（現在）よりも生活満足度（理想）の方が高く、5%水準で有意である（**図3**）。区分間の差を見ると、年収に差がある区分間に5%水準で有意である組み合わせが見られた。

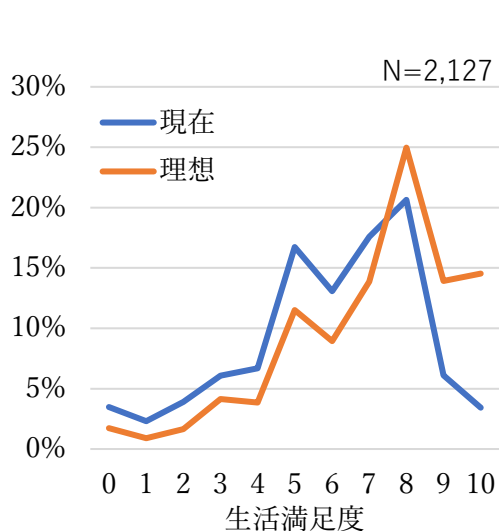


図1 生活満足度（現在）及び生活満足度（理想）の分布

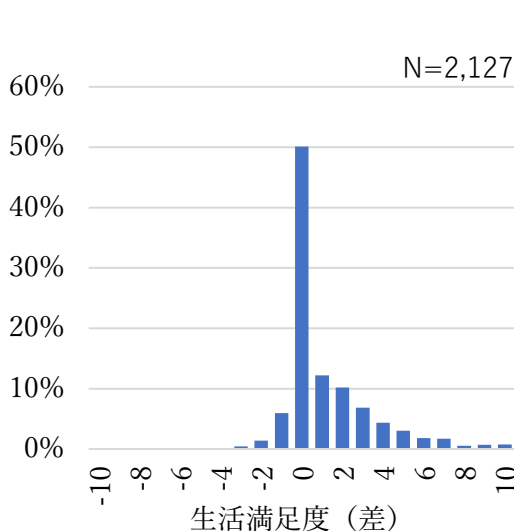


図2 生活満足度（差）の分布

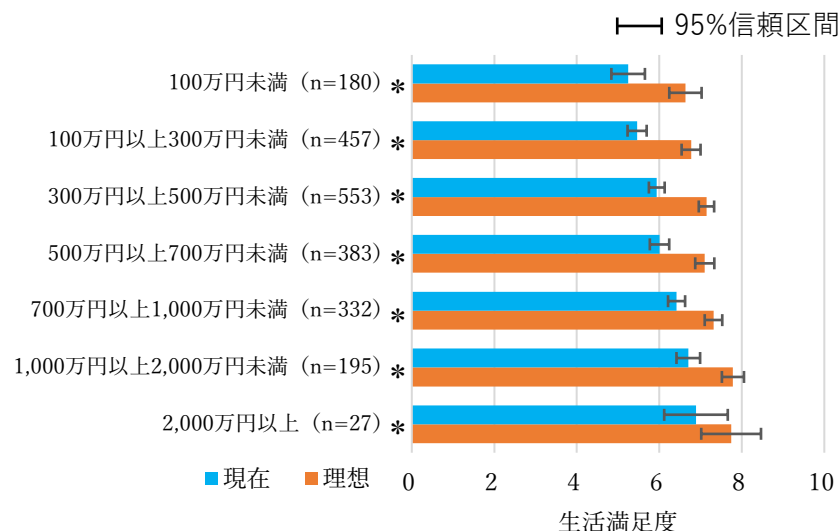


図3 生活満足度（現在）及び生活満足度（理想）の平均値（世帯年収別）

*は生活満足度（現在）と生活満足度（理想）の平均値の差が5%水準で有意であることを示す